

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サムテック株式会社 羽曳野第9工場	階数	地上2F、地下0F
建設地	大阪府羽曳野市駒ヶ谷	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	65 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,490 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年3月14日
敷地面積	14,670 m ²	作成者	熊木 竜也
建築面積	5,818 m ²	確認日	2025年3月17日
延床面積	9,832 m ²	確認者	土屋 昌信



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.1 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1	LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3	Q のスコア = 2.7 LR のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 大阪府羽曳野市に建設される工場+事務所の敷地内増築の計画である。全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用し、自然換気開口・リフレッシュスペースの確保により、執務環境に配慮している。また、節水器具やリサイクル材の採用で資源の保護にも配慮している	その他 特になし。	
Q1 室内環境 全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用、自然換気開口は執務室の1/15以上を確保、全館禁煙とすることで、空気質環境の向上に配慮している。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。また、階高や壁長さ比率に余裕を持たせ、フレキシビリティにも配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 外観パースを複数作成し、色彩の検証などを行うことで、まちなみに配慮している。
LR1 エネルギー 高効率な設備システムを導入し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用やリサイクル材の積極的な採用で資源の保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		サムテック株式会社 羽曳野第9工場 新築建築工事							
建設地		大阪府羽曳野市駒ヶ谷							
用途／区分		工場 事務所							
【評価結果】	CASBEE 総合評価							B+	
①	CO2削減							4	
②	みどり・ヒート アイランド対策							2	
③	断熱性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外				評価対象外		
④	エネルギー消費性能							4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外				評価対象外		
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					3		
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
	エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】									
項目		評価内容					スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.6	4	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善					3.0		
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5	
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					3.7	4	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入		技術の名称				考慮事項			
特に配慮した事項									